

山梨

富士登山競走：昨年の死亡事故受け、救護メディカル部会設置 - - 実行委 / 山梨

AED携行隊員が巡回

第62回富士登山競走の実行委員会(実行委員長、堀内茂・富士吉田市長)は1日、沿道救護を担当するメディカル部会を設置した。昨年の大会で選手が死亡した事故を受けた措置。堀内市長は同日の初会合で「昨年のような事故が起きないようにしたい」と、安全な運営に万全を期す考えを表明した。

会合で救護体制を検討した結果、全コースをAブロック(スタート地点から馬返し給水ポイントまで約11キロ) Bブロック(馬返しから5合目までの約4キロ) Cブロック(5合目から山頂まで)に区分。昨年事故が発生したBブロックは国土舘大学大学院スポーツシステム研究科のチームが救護を担当、AED(自動体外式除細動器)を携行したパトロール隊員を巡回させる。

また、コース上の救護所に配置された医師・看護師などが選手の体調をみてレース続行を中止させるストップ制度の導入も決めた。

給水ポイント4カ所を増設し、選手の休憩用テントも設置する。

実行委では当日、救護に当たる医師、看護師を全国から公募する。募集人員は各4人以上で、今月中旬から受け付ける。

富士吉田市立病院の前田宜包診療部長は「救護体制を整えれば、無謀な参加をやめさせる予防効果も期待できる」と話した。【田上昇】

【関連記事】

[東京マラソン：松村邦洋さん倒れ一時意識不明](#)

[AED：伊賀市総合危機管理室、無料で貸し出し「安心・安全へ積極利用を」 / 三重](#)

[AED：阿波銀が講習会、真剣に新入行員29人 / 徳島](#)

[AED：全私立幼稚園に設置へ - - 浜松 / 静岡](#)